

## ザ・チャレンジ

(大学受験編)

ここ数年で大きく進められてきた「高大接続改革」ですが、現中学3年生の方から影響を受けることになる「大学入学者選抜改革」に具体的な動きがありました。

大学入試センター試験の廃止に伴い実施される「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の「実施方針」が2017年度初頭に策定・公表されることになっておりましたが、5月15日に文部科学省より「大学入学共通テスト(仮称)」実施方針(案)として出されました。今後大学や高等学校などと協議の上、「実施方針」として確定します。名称が「大学入学共通テスト」に変更されたほか、20年度に21年度入学者選抜として実施されることや、具体的な出題教科・科目、「国語」「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学Ⅱ」にマークシート式問題に加えて記述式問題が出題されることなどが決まりました。また、英語については4技能(「読む」「聞く」「話す」「書く」)を評価するために、大学入試センターが認定する資格・検

## Q. 高大接続で大学入試はようになる?

定試験を、高3の4~12月に受験する2回までの結果で評価することとし、23年度まで「大学入学共通テスト」と並行して実施するか20年度で完全に資格・検定試験に移行するかは今後検討することになります。

詳細についてはまだ検討事項もあるため、「実施方針」が確定したのち、19年度初頭に実施大綱が策定・公表される予定です。「知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うものとする」ことも、これまでどおり明記されています。

注目すべきことの1つは英語4技能の評価が資格・検定試験で行われることです。もう1つは国語の記述式問題です。英語の資格・検定試験には英検やTOEFL、TEAP、GTECなどが挙げられ、今後大学、高等学校などと協議の上、大学入試センターより認定された資格・検定試験が公表されます。国語については「大学入学共通テスト」のモデル問題例にも「行政機関

が広報を目的として作成した資料」や「契約書」を題材として出されていましたが、「文字数80~120字程度の問題を含め3問程度」が出題され、これまでの大学入試センターでは見られなかった実社会に近い具体的な場面での思考力・判断力・表現力を問われる試験が検討されているようです。

文部科学省は次期学習指導要領に基づく24年度以降の「大学入学共通テスト」の「実施方針」を、21年度をめどに策定・公表する予定です。今後も進められる「高大接続改革」を大学入試だけでなく、教育の在り方と日本の未来に向けた改革として今後も注目し続けましょう。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な学び、の情報を紹介。次回は小学校受験編。



大学進学情報紙「TOSH IN TIMES」  
CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布中

## A. 英語と国語の改革に注目